

令和7年度 大坪小学校校内研究計画

1 研究主題

1人1台端末を活用した授業改善（2年次）

～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して～

2 主題設定の理由

（1）社会背景

科学技術・イノベーション基本計画において「一人ひとりが多様な幸せ Well-being を実現できる社会」として Society5.0 時代の実現を目指している。学習指導要領にも社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたことが指摘されたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、その指摘が現実のものとなっている。学校現場においても、児童を誰一人取り残すことなく、一人一人に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育 ICT 環境の実現のため GIGA スクール構想が示され、本校も令和3年度には一人一台タブレットパソコンと、通信ネットワークが整備され教育の ICT 環境が実現した。それに加えて、AI の飛躍的進化により、我々の生活も DX（デジタルトランスフォーメーション）による変化が始まっている。このような時代において次代を切り拓く児童には、情報活用能力をはじめ、言語能力や数学的思考力などこれからの時代を生きていく上で基盤となる資質・能力を確実に育成していく必要があり、そのためにも ICT 等を活用して、「個別最適化された学び」を実現していくことが不可欠である。

（2）子供たちに育むべき資質・能力

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきたといった時代背景を踏まえた上で学習指導要領では「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、児童がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる、生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童が「何ができるようになるか」を併せて重視している。このため、各教科等の指導を通して育成する資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理されている。また、総則において、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）等の学習の基盤となる資質・能力を育成するため、各教科等の特性を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとすることを明記され、情報活用能力が言語能力と同様に学習の基盤となる資質・能力と位置づけされた。

（3）「個別最適な学び【学習者視点】」「個に応じた指導【教師視点】」「協働的な学び」実現のポイント

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためには、1単位時間の授業の中ですべてが実現されるものではなく、例えば、単元や題材のまとまりの中で、個別に学習を見直し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する協働的な学びの場面をどこに設定するか、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかといった視点で評価規準に示した資質・能力を身につけることが求められている。教師が一方的に教え込む暗記・再生型の授業から、児童自ら考え他者に伝え合う思考・発信型の授業に転換していかなければならない。しかし、これまでとは違う新しい教育活動を推進しなければならないという訳ではない。本校においても、これまでの研究成果をこれからの研究に活かすとともに、地に足をつけ土台を強固にした研究推進を実行していくことが重要であると考えている。

以下に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けたポイントを、整理して示す。

【個別最適な学び】

「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者視点から整理した概念が「個別最適な学び」であり、これを教師視点から整理した概念が「個に応じた指導」である。

① 指導の個別化

全ての児童に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供に

より重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」が必要である。

② 学習の個性化

基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、様々な場を通じての体験活動から得た児童の興味・関心の方向性などに応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身が学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」も必要である。

【協働的な学び】

探究的な学習や体験活動などを通じ、児童同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要である。

個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICT 等は必要不可欠なものである。その一方で、ICT を活用すること自体が目的化してしまわないよう、十分に留意することが必要である。直面する課題を解決し、あるべき学校教育を実現するためのツールとして、いわゆる「二項対立」の陥ることのないよう、ICT 等をこれまでの実践と最適に組み合わせ有効に活用する、という姿勢で臨むべきである。

(4) 研究の経過と学校の実態から

本校では、令和6年度より1人1台端末を活用した授業改善を中核に据えて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して取り組んできた。昨年度から導入されたAIドリルや、校務システムソフトなどICT等を効果的に活用して、児童の資質・能力の向上を図ることが期待されている。

また、令和6年12月より令和8年3月まで学習支援ソフト「MetaMoji クラスルーム」を試験導入している。本ソフトは協働編集や画面共有、画面比較などの機能があり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指す本校の研究に適していることから、積極的に活用を進めていきたい。

3 研究主題について

(1) 研究主題にかかわる事項

「個別最適な学び」と「協働的な学び」に関する本校の捉え

ア「個別最適な学び」に関する事項

- ・必要に応じた重点的な指導、指導方法等の工夫により学習内容の定着を目指すこと。
- ・一人一人に応じた学習活動、学習課題の提供により、学習を深め、広げること。

イ「協働的な学び」に関する事項

- ・多様な他者との協働により、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すこと。

4 研究の目標

一人一台端末を授業に効果的に取り入れることによって、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導方法のあり方を明らかにする。

5 研究の仮説

次のような手立てをとれば、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な指導ができるであろう。

- (1) 一人一台端末を活用した授業について情報を集め、授業実践を行い共有する。
- (2) タブレットの使い方や機能を周知し、職員のスキルアップを促す。

6 研究の内容と方法

(1) 一人一台端末を活用した授業について情報を集め、授業実践を行う。

- ア 学年の教科・領域に応じた授業実践を調べて学年グループで共有する（情報収集）。
- イ 一人一台端末を活用した授業実践を行い、各学年グループに共有する（授業実践）。

(2) タブレットの使い方や機能を周知し、職員や児童のスキルアップを促す。

- ア 一人一台端末の使い方や機能を中心に学習会を企画し、職員の操作スキルアップを図る（学習支援）。
- イ 校務ソフトや発達障害ポータルサイトの機能を中心に学習会を企画し、職員のスキルアップを図る（校務支援）。
- ウ 児童が一人一台端末を活用するために、発達段階に応じた学習計画を立てて、児童の操作スキルアップを図る（児童の活用力）。

7 めざす児童像

目的に応じ一人一台端末を活用して、進んで学習に取り組もうとする児童

低学年：一人一台端末を使って、楽しみながら学習に取り組むことができる。

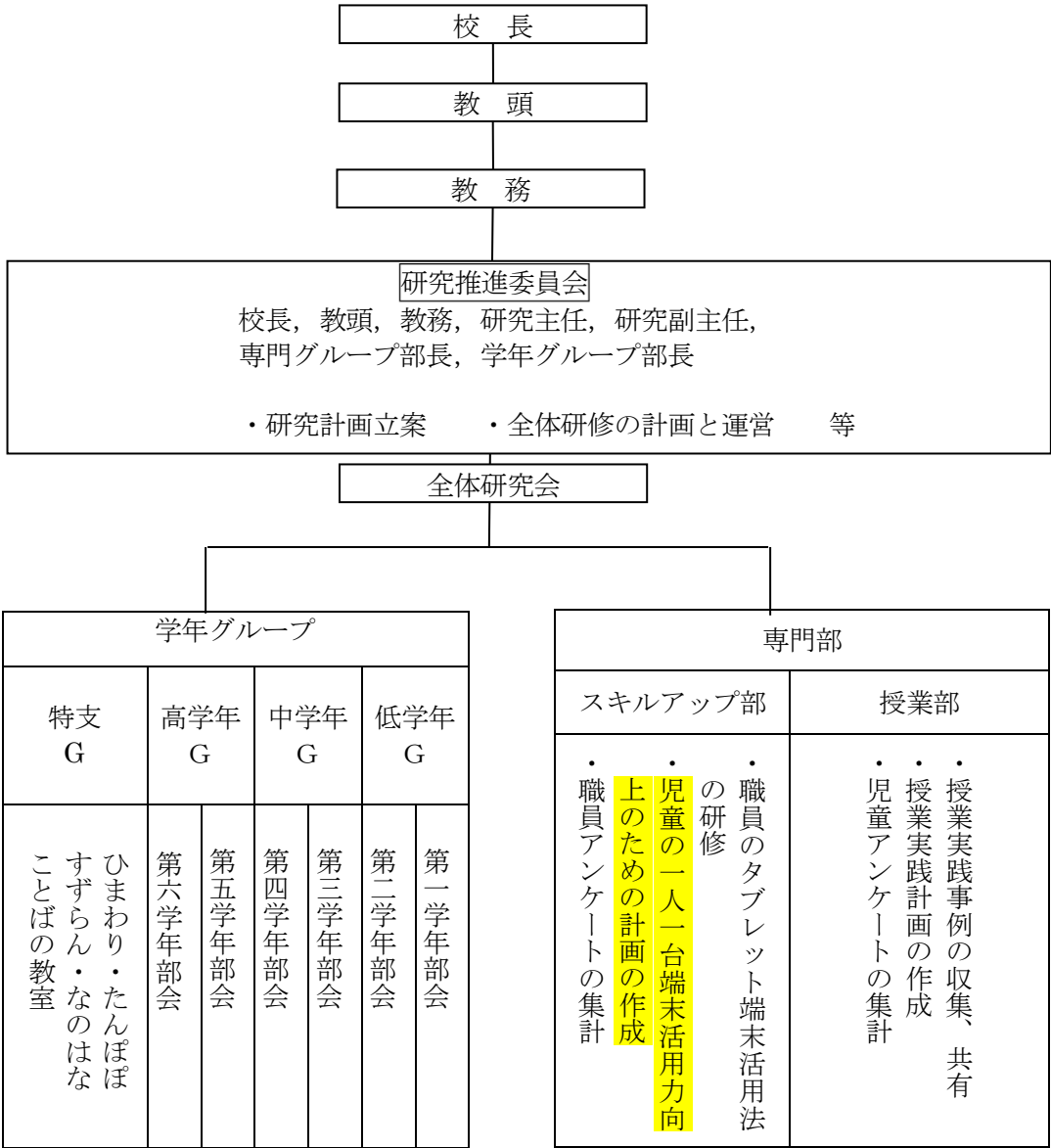
中学年：一人一台端末を使って、友達と協働的な学習に進んで取り組むことができる。

高学年：目的に応じた一人一台端末の利用を通して、友達と協働的な学習に進んで取り組み、自分の考えを深めることができる。

検証方法

- ・児童アンケート（年2回）
- ・職員アンケート（年2回）
- ・年間を通した実践事例をまとめる。

8 研究の組織



年間活動計画

月 日	内 容
4 月 9 日	研究推進委員会（研究概要の提案と確認）
4 月 16 日	全体研（研究概要の提案）・専門部会（研究内容の確認、年間計画） 学年グループ研（研究内容の確認、学年G長）
5 月 7 日	全体研（専門部の提案）
5 月 28 日	提案授業①
6 月 4 日	校内研修（LITALICO）
6 月 18 日	提案授業②
7 月 3 日	校内研修（LITALICO 操作研修）
7 月 9 日	専門部会・学年グループ研（1 学期の振り返り、今後の計画） 職員・児童アンケート（～7/18）
7 月 29 日	全大研（専門部より 1 学期の振り返り、今後の計画の報告、代表授業の日程決定）
7 月 30 日	職員研修（プログラミング教育）
9 月 3 日	全体会（2 学期の計画） 学年グループ研（指導案作成）
9 月 17 日	学年グループ研（指導案作成）
10 月 8 日	学年グループ研（指導案作成）
10 月 22 日	学年グループ研（指導案作成）
10 月 29 日	学年グループ研（指導案作成）
11 月 5 日	学年グループ研（指導案作成）
12 月 3 日	全体会（研究のまとめについて） 職員・児童アンケート（～12/19）
12 月 10 日	専門部会・学年グループ研（研究のまとめについて）
12 月 24 日	校内研修（プログラミング教育）
1 月 30 日	研究のまとめ原稿締め切り

20250416 校内研究計画

2 月 26 日	研究のまとめ製本
3 月 3 日	研究のまとめ・反省
3 月下旬	次年度に向けた研究推進委員会（企画会議）